

I - A - 15

老人性膣炎に於ける八味地黄丸投与効果

久留米大学産婦人科

○丸内辰裕、杉山 徹、友成美鈴、平井ひろみ、薬師寺道明

【目的】 老人性膣炎（萎縮性膣炎）は更年期を経た老年期に認められる疾患で、自覚症状として黄色帯下、掻痒感が特徴的である。他覚的には、発赤、帯下、特徴的な細胞像があげられる。今回、種々の老人性疾患に有効性があるとされる八味地黄丸を用いて本疾患を治療する機会を得たので報告する。

【対象及び方法】 対象は1991年6月～12月に久留米大学産婦人科を受診し、婦人科手術、悪性腫瘍の既往、合併のない50才以上の25例とし、上記の自覚症状（帯下感、掻痒感）と他覚症状（帯下量、発赤程度）を0～3までの4段階でスコア化して評価を試み、膣細胞診（maturation index:MI）の変化を3例で観察した。処方としては、ツムラ八味地黄丸を7.5g/日、4週間以上経口投与し、その臨床効果について検討した。

【結果】 自覚症状は、改善36%、やや改善32%、不変24%、悪化8%で、他覚所見では、改善44%、やや改善36%、不変16%、悪化4%であった。腰痛、肩こり、手足の冷え、易疲労感などの自律神経失調症状を合併していた15例中10例（66.7%）に自覚症状の改善が認められた。MIの変化は3例中1例では不変、2例では右方移動が観察され、旁基底細胞／中層細胞／表層細胞の比は投与により、72/26/2より60/36/4、及び74/24/2より52/40/8であった。背景因子として、白血球の減少により炎症像の改善が観察された。

【考案】 八味地黄丸は帯下量、掻痒感の減少、消失のみならず膣壁の発赤の改善、炎症所見の改善も認められ、同時に老年期に多い種々の自覚症状も改善した。また、副作用も認めず膣細胞成熟指数で右方移動を認め、間接的にエストロゲン動態に何らかの影響も考えられ、本症を含め老年期の全身状態改善にも有用と考えられた。